

新指定文化財紹介



名称 皆谷薬師堂の扁額「碧欄堂」

所在 東秩父村大字皆谷字山口 薬師堂（旧宝楼閣寺薬師堂）

概要

この額は薬師堂の階段上に掲げられていた物で、現在は光官寺に移され、堂内に掲げられている。書は真言宗智山派大本山智積院第7世藤原運徹、号を泊如。

江戸期の扁額として、村内在住の大工江原勘兵衛の作品としてそのできばえがすばらしく、制作の由来等が記され、歴史資料として、また村内に数少ない篆刻の美術資料としても保存する価値は高い。なお、藤原運徹上人の没年と制作年に35年が開きがあるが、裏書きによれば、山主栄海が以前に求めていた物と考えられる。

材質：樺一枚板、法量：縦43.2cm、横93.8cmである。額縁が廻り、その厚みは6cm。

全体法量は縦50cm、横101cm、厚さ6cm。

制作年：享保13年（1728）秋。

額の裏に墨書で、額の由来が記されている。

その全文を下に記す。



裏書全文（原文縦書） 同訳文

享保戊申歳秋九月有巖黄邑
山寶楼閣寺薬師如来開帳
山主茲歳泊如導師之求碧欄堂
之三大字而請扁額因是莫
逆之善等傭工彫之以扁其堂云
武州秩父郡皆谷村
願主寶楼閣寺現住栄海
安戸邑
野澤幸助敬隆
施主 高野金右衛門宗継
同 平八政方
彫工 江原勘兵衛

同訳文

享保戊申の歳（13年・1728）巖黄邑山寶楼閣寺で薬師如来の開帳があった。山主栄海は、この歳、泊如導師に扁額を請い、この碧欄堂の3大字を求めた。之によって、遅くなったが、生前に死後の極楽浄土を願う者が工人を傭い、これを彫り、もってその堂に掲げる。
(武州秩父郡皆谷村以下略)

